

製品名: ラミニン β -2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13201**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	210kDa

抗原情報

遺伝子名	LAMB2
別名	LAMB2; LAMS; Laminin subunit beta-2; Laminin B1s chain; Laminin-11 subunit beta; Laminin-14 subunit beta; Laminin-15 subunit beta; Laminin-3 subunit beta; Laminin-4 subunit beta; Laminin-7 subunit beta; Laminin-9 subunit beta; S-laminin sub
遺伝子 ID	3913.0
SwissProt ID	P55268
免疫原	抗血清はヒト LAMB2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 61-110

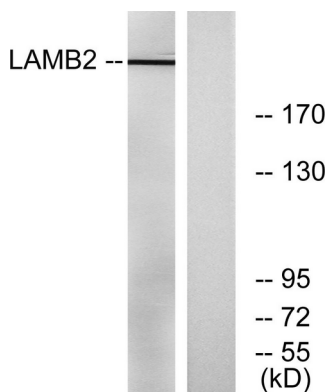
背景

ラミニンは、細胞外マトリックス糖タンパク質ファミリーであり、基底膜の主要な非コラーゲン性構成成分です。細胞接着、分化、遊走、シグナル伝達、神経突起伸展、転移など、様々な生物学的プロセスに関与していることが示唆されています。ラミニンは、ラミニン α 、ラミニン β 、ラミニン γ (以前はそれぞれラミニン A、ラミニン B1、ラミニン B2 と呼ばれていました) という3つの非相同鎖から構成され、それぞれ異なる鎖からなる3本の短腕と、3本すべての鎖からなる長腕からなる十字形構造を形成します。各ラミニン鎖は、それぞれ異なる遺伝子によってコードされるマルチドメインタンパク質です。各鎖には複数のアイソフォームが報告されています。異なるアルファ、ベータ、ガンマ鎖異性体が結合して、異なるヘテロ三量体ラミニンアイソフォームが生じます。これらのアイソフォームは、発見順にアラビア数字で指定されます。つまり、アルファ1ベータ1ガンマ1ヘテロ三量体はラミニン1です。生物学的機能疾患: LAMB2の欠陥は、先天性ネフローゼ症候群[MIM:609049]の原因です。先天性ネフローゼ症候群は、正常な糸球体選択透過性の破綻を共通して持つ、異質な疾患群です。LAMB2変異による先天性ネフローゼ症候群は、眼の異常を伴うことがあります。疾患: LAMB2の欠陥は、ピアソン症候群[MIM:609049]の原因です。ピアソン症候群は、小瞳孔-先天性ネフローゼ症候群としても知られています。ピアソン症候群は、新生児期発症のネフローゼ症候群、びまん性メサンギウム硬化症、および小瞳孔を主症状とする眼異常を特徴とする。通常、生後数週間以内に死亡する。疾患の重症度は変異の種類によって異なります。LAMB2の非切断型変異は、ピアソン症候群のより軽度の変異から孤立性の先天性ネフローゼ症候群まで、さまざまな表現型を示す可能性があります。ドメイン:ドメインVIとIVは球状です。ドメイン: α ヘリカルドメインIとIIは、他のラミニン鎖と相互作用してコイルドコイル構造を形成すると考えられています。機能:ラミニンは、高親和性受容体を介して細胞に結合し、他の細胞外マトリックス成分と相互作用することで、胚発生中に細胞の接着、移動、組織への組織化を媒介すると考えられています。類似性:ラミニンIVタイプBドメインを1つ含みます。類似性:ラミニンN末端ドメインを1つ含みます。類似性:ラミニンEGF様ドメインを13個含みます。細胞内局在:S-ラミニンは、神経筋接合部のシナプス間隙に集中しています。サブユニット:ラミニンは複合体です。3つの異なるポリペプチド鎖(α 、 β 、 γ)からなる糖タンパク質。これらの鎖はジスルフィド結合によって互いに結合し、1本の長鎖と3本の短鎖からなる十字型の分子を形成し、その両端には球状構造を有する。 β -2は、ラミニン-3(S-ラミニン)、ラミニン-4(S-メロシン)、およびラミニン-7(KS-ラミニン)のサブユニットである。

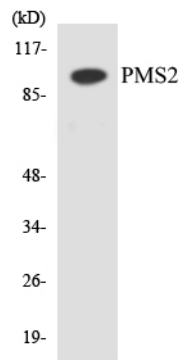
研究分野

接着斑、ECM-受容体相互作用、がんにおける経路、小細胞肺がん、

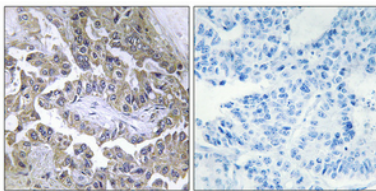
画像データ



RAW264.7細胞ライセートのLAMB2抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



PMS2 抗体を使用した HUVEC 細胞溶解液のウエスタンブロット分析。



パラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。